

# 日本情報考古学会会報

No.1

1995（平成7）年12月

## 目次

---

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 第1回日本情報考古学会大会への御案内..... | 1 |
| 第1回大会「研究発表」の募集.....     | 1 |
| 運営委員会の記録.....           | 2 |
| 理事会・委員会の記録.....         | 2 |
| 学会誌の刊行と研究論文の募集について..... | 3 |
| 話構造化文書SGMLの(1).....     | 3 |
| 第1回大会研究発表申込書（様式）.....   | 7 |

---

## 会 告

### 日本情報考古学会第1回大会のご案内

期 日：1996年3月23日（土）・24日（日）

会 場：帝塚山大学キャンパス（〒631 奈良市帝塚山1丁目1-1）

主 催：日本情報考古学会・日本情報考古学会大会総会委員会

事務局：〒631 奈良市帝塚山7丁目1-1

帝塚山考古学研究所内（TEL. 0742-48-9700 FAX 0742-43-1074）

会員・非会員ともに参加費は無料。予稿集は会員には無料、非会員には1000円で配布。

### 日本情報考古学会第1回大会「研究発表」の募集

会告のとおり、第1回日本情報考古学会第1回大会を1996年3月23日（土）・24日（日）の両日、帝塚山大学キャンパスを会場として開催いたします。

開催に当り会員各位に個人またはグループでの研究発表を次の要領で広く募集いたします。研究発表を希望される方は、情報考古学会事務局あてお申し込みください。多数のご応募を期待しております。

#### 1. 研究発表について

- (1) 発表内容 遺物・遺構形状の計測技術、あるいはそれらのデータの計量分析、理化学的データの収集とその解析手法、考古学的事象をめぐるコンピュータ・シミュレーション、インターネットなど新たな通信基盤を介しての研究者間のデータ共有や共同研究をめぐる技術、多様な考古学的資料のデータベース化とその利用法など、考古学的情報に関わる幅広い分野の学際的研究を募ります。
- (2) 発表時間 質疑応答を含んで、発表1件当り30分を予定しています（発表件数などによって変更することがありますのでご了承ください）。

#### 2. 発表の申込みについて

- (1) 申込方法 別記様式の申込書（最終ページに掲載）に必要事項を記入の上、期限内に情報考古学会事務局までご送付ください。
- (2) 申込期限 1996年1月16日（火）（当日の消印有効。申込が多い場合は先着順とします）

#### 3. 予稿の提出について

- (1) 予稿枚数 図版を含めてA4用紙6枚以内。所定の枠内に原稿を書くか貼り込むかプリンターで印字してください。発表申込者には用紙見本をお送りします。
- (2) 予稿締切 1996年2月29日（木）情報考古学会事務局に必着のこと。

#### 4. 予稿集の編集について

- (1) ご送付いただいた原稿を直接写真製版いたしますので、筆者による校正の機会はありません。完全原稿をご提出ください。
- (2) 提出された予稿の原稿は、原則として返却いたしません。予め各自でコピーを保存してください。

#### 5. 発表資格

発表者に一人以上の会員が含まれることが応募の条件となります。

## 運営委員会の記録

1995年11月21日午後6時～10時

於：帝塚山考古学研究所

出席者：会長 堅田 直

理事 村上征勝（広報担当）

横見博之（編集担当）

委員 井上誠喜（大会総会）

上原邦彦（総務会計）

岡安光彦（広報）

大城 理（編集）

西村鋼児（編集）

森 郁夫（総務会計）

山田幸弘（大会総会）

司会：岡安光彦

### 議事

初めに堅田会長から、会員の申込み状況、会費の集まりと学会の財政見通し等について報告があり、了解された。

次いで第1回大会の準備（会期、準備のスケジュール、発表の公募方法、予稿集、広報等）・学会誌の刊行・研究会活動・学会賞の設置・会報（ニュースレター）の発行などが話し合われた。その結果、この日の討議内容をもとに広報委員会が12月8日に開催される理事会のための議案書を作成して当日配布すること、また大会・総会委員会はこの理事会までに研究発表の募集要項を準備して理事会の了承を受け次第発送可能な状態にしておくこと、また同様に広報委員会は、会員への会報第1号の発刊を準備しておくことなどが了解された。

## 理事会・委員会の記録

1995年12月8日午後2時～7時

於：帝塚山考古学研究所

出席者：会長 堅田 直

理事 植村俊介（編集担当）

鳥居宏次（大会担当）

中津良平（大会担当）

村上征勝（広報担当）

横見博之（編集担当）

渡邊直経

監事 都司純一

委員 井上誠喜（大会総会）

岡安光彦（広報）

大城 理（編集）

西村鋼児（編集）

本間元樹（大会総会）

森 郁夫（総務会計）

間瀬健二（広報）

山田幸弘（大会総会）

吉川義彦（大会総会）

司会：堅田 直

### 議事

#### 1. 会員応募・会費徴収状況に関する報告

堅田会長から会員の応募や会費徴収の状況、学会の財政見通し、学会印や封筒の作製などについて報告があり、了解された。

#### 2. 第1回大会開催について

第1回大会を1995年3月23日（土）・24日（日）の両日に渡って開催すること、またその準備作業として発表募集要項の発送等を進めて行くことが了解された。

大会では、会長による基調講演の他、考古学・統計学・情報科学の各分野からの講演を予定することになった。研究発表は内容によっていくつかテーマごとにグループに分けすること、発表は質疑応答の時間を含めて30分以内とすることなどが決まった。

予稿集原稿は各A4用紙6枚以内（規程の枠内におさめる）とすること、また予稿集は帝塚山考古学研究所で印刷、製本することが了解された。予講習は正会員と準会員は無料で配布され、非会員には1000円で頒布することになった。

考古学協会員への大会開催の案内は帝塚山考古学研究所が行い、考古学系講座を有する大学、研究機関、教育委員会（県教委あるいはこれまで関係のあった市町村教育委）、文化財事業団等にも案内を送ること、またEメール（主に情報系）やパソコンネットによる広報も行うことが了解された。

#### 3. 学会誌（論文誌）について

学会誌のタイトルは、正式名称「日本情報考古学会誌」、通称「情報考古学」とすることに決定した。

第1号には従来の帝塚山あるいは統数研のシンポジウムの発表から収録し、今年度中に出版すること、収録論文の選択、査読など具体的作業は、編集委員会が進めること、第2号からは査読委員会を組織すること、出版や非会員への販売等の作業は外部に委託すること、次年度以降は会報等を通して論文を公募して行くことが決まった。また学会誌は来年度より年2回刊行することが了承された。

学会誌の論文は、奈良先端大マルチメディア統合システム講座の協力を得て、国際的な標準である構造化文書のSGML文書として保存し、将来の活用を図っていくことが了解された。

#### 4. 会報（ニュースレター）の発行

年2回、学会の活動状況を会員に報告するための会報（ニュースレター）を発行すること、その編集と版下製作は広報委員会が担当し、帝塚山考古学研究所が印刷、発送すること、第1号は12月8日の理事会の記録の報告や第1回大会の発表募集を兼ねて発行することなどが決まった。会報の名称については広報委員会に一任された。

#### 5. 学会賞について

来年度から、情報考古学に関する積極的研究活動を奨励するため、本学会誌に採録された論

文を対象とする優秀論文賞を授与すること、また副賞として1件につき5万円を授与することが決まった。さらに、次年度より、論文賞授与のための選考委員会を設置することが了解された。

#### 6. 研究会活動について

考古・情報・統計各分野の研究者の活発な交流を図り、情報考古学をめぐる研究を活性化するため、会員の研究会活動に対して一定の予算枠をもって学会が援助していくこと、そのため研究会活動を公募し、それぞれに対して学会から年間1件あたり5万円を支給して行くこと、その事務は総務・会計委員会が担当することが了解された。

当面はモデルケースとして帝塚山考古学研究所を主要な活動拠点とする研究会を組織し、各分野の研究者の学際的な交流と情報交換を図って行くことになった。

#### 7. その他

各委員会の活動にともなう当面の予算をめぐる計画と執行等に関しては、総務会計委員会の森委員長に一任された。

法人会員については、それぞれ3名分の会員資格を認めることが了解された。

定例理事会は年2回とし、今回は1996年3月22日に開催することが了解された。

### 学会誌の刊行と研究論文の募集について

日本情報考古学会では、学会誌の刊行を開始します。掲載論文は、会員から広く公募します。審査によって論文の掲載の採否を決定する査読制を取り入れていく方針です。

執筆要項等に関しては次の会報で詳しくお知らせします。論文の原稿は、図版などを除いて、フロッピーディスクあるいはコンピュータ・ネットワークなどを介して、できるだけ電子的な方法でやり取りできる方法を採用していく予定です。会員の皆様にも可能な範囲でのご協力をお願いいたします。

なお、本学会誌に掲載される研究論文は、奈

良先端科学技術大学院大学マルチメディア統合システム講座の協力を受けながら、CALSなどにも採用されている国際標準の構造化文書である「SGML」の形式で保管し、将来的には電子図書館などでの活用が図れるようにしていく計画です。

研究論文をSGML文書に標準化し、活用を図って行くことの意義や方法などに関しては、会報や研究会、大会でのチュートリアルなどさまざまな機会を通して、会員諸氏に情報を提供していく予定です。

## 構造化文書SGMLの話(1)

情報考古学会の論文はSGMLと呼ばれる構造化文書の形で標準化して保存され、将来的な活用が図られることが計画されています。

しかしそうは言っても「SGMLなんて聞いたことがない」という人が大部分と思われます。情報系の研究者でも、分野によっては初耳という方も決して珍しくないに違いありません。そこで、今回はなるべく分かりやすい例を使って、SGMLとは一体何なのかということをご説明したいと思います。

さて、頼山陽が唐詩の起承転結の要領を教えるためによく使ったという次のような俗謡を例に考えてみます。

大阪本町紅屋の娘  
姉は十六妹は十五  
諸国大名は弓矢で殺す  
紅屋の娘は目で殺す

我々の場合は、一読してどの部分が起か承かすぐに分ります。しかしコンピュータにとっては単なる文字列でしかなく、起承転結という構造は分かりません。4行に分けて書いてありますが、それは単に改行コードに従っているだけで、コンピュータが文の構造を理解してそうしている訳ではありません。

そこで、次のようなタグ(荷札)を付けることで文の構造をコンピュータに教えてやろというのがSGMLの考えです。

<起承転結>  
<起>大阪本町紅屋の娘</起>  
<承>姉は十六妹は十五</承>  
<転>諸国大名は弓矢で殺す</転>  
<結>紅屋の娘は目で殺す</結>  
<起承転結>

例えば<起>と</起>というタグで挟まれた部分が起承転結の起であることを示しています。つまり文の何等かの構造、段落だったらその始めに<段落>、最後に</段落>とタグ付けして、どの部分が文章のいかなる構造に相当するのかをコンピュータに教えてやるわけです。

もちろん、こうしたタグ付けをする前に、コンピュータに対してどんなタグを付けたいのか、予め指定しておく必要があります。SGMLの場合ではDTDというものでどんな要素をタグ付けしたいか、予め宣言することになっていますが、今回はDTDの話は省きます。

こんな面倒なことをして、DGMLにはどんなメリットがあるのでしょうか。重要なのは、コン

ピュータに文書の構造まで含めて保管されるという点です。このことによって様々な利用の可能性が広がっていきます。

例えば次のようにタグ付けして構造化された論文の一節があるとしします(ただしこのタグ付けは理解しやすいように実際のものよりかなり概念的になっています)。

<論文>  
<表題>馬具副葬古墳と東国舎人騎兵  
<副題>考古資料と文献資料による総合的分析の試み</副題></表題>  
<著者>岡安光彦</著者>  
<本文>  
<章>  
<見出し>はじめに</見出し>  
<段落>先に<遺物>素環の轡</遺物>の<用語>編年</用語>を試みた際、資料を集める過程で、<キーワード>馬具の分布</キーワード>には著しい地域的な偏りがあることに気づいた。我が国には約<データベース参照>1000基</データベース参照>の<キーワード>馬具副葬古墳</キーワード>が分布しているが、そのうち約<データベース参照>210基</データベース参照>が<地名>長野県</地名>に、<データベース参照>140基</データベース参照>が<地名>静岡県<地名>に集中しているのである。<段落/>

.....

タグを隠して普通の書物のように表示したり印刷することも当然可能です。しかしSGML文書化してとくにメリットがあるのは、例えば文書とデータベースを融合したダイナミックなシステムを構築するような場合です。

まず第一に上のような論文や報告書の様々なデータを外部から容易に検索し、データベースとして利用できます。また逆にSGMLでは文書中から外部のデータベースを参照することも可能ですから、常に最新のデータを自動的に文書に反映させておくことも可能になります。例えば上の論文であれば、馬具副葬古墳の数を常に最新のデータに基づいたものにしておくことができますようになります。

SGML文書そのものは一種の半製品=素材ですので、使い方次第で多様な利用法が広がっていくと期待されています。次号はSGMLの歴史的な流れ、あるいは社会的背景などについて触れてみたいと思います。(mituhi-o@is.aist-nara.ac.jp)

(様式)

## 日本情報考古学会 第1回大会 研究発表 申込書

|                                                                           |                                              |  |        |                                              |
|---------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|--|--------|----------------------------------------------|
| 発表者                                                                       | ふりがな                                         |  | ふりがな   |                                              |
|                                                                           | 1. 氏 名                                       |  | 4. 氏 名 |                                              |
|                                                                           | ふりがな                                         |  | ふりがな   |                                              |
|                                                                           | 2. 氏 名                                       |  | 5. 氏 名 |                                              |
|                                                                           | ふりがな                                         |  | ふりがな   |                                              |
|                                                                           | 3. 氏 名                                       |  | 6. 氏 名 |                                              |
| 発表者<br>連絡先                                                                | 〒<br>_____<br>TEL.<br>FAX                    |  |        | 複数の場合は代表<br>者連絡先を記入し<br>てください。<br><br>E-mail |
| 発表 題 目<br>(テーマ)                                                           |                                              |  |        |                                              |
| 発表の主旨<br>または要旨<br><br>ご発表いただく<br>セッションを決<br>めるため、でき<br>るだけ詳しくご<br>記入ください。 |                                              |  |        |                                              |
| 発表に必要な<br>機 材 等                                                           | 1. スライド・プロジェクタ<br>2. OHPプロジェクタ<br>3. その他 ( ) |  |        |                                              |
| 事務局への<br>連 絡 事 項                                                          |                                              |  |        |                                              |

(199 年 月 日受理)

**日本情報考古学会会報 No.1**

発行日 1995年12月9日  
発行者 日本情報考古学会広報委員会  
事務局 〒631奈良市帝塚山7-1-1  
帝塚山考古学研究所内  
電話 0742-48-9700  
FAX 0742-43-1074